

目白大学／目白大学短期大学部

交通アクセス

サイトマップ

English

サイト内検索

MEIJO UNIVERSITY

大学院

短期大学部

キャンパスライフ

就職情報

図書館

研究所等

外国語学部



アジア語学科
日本語教育専攻

カリキュラム一覧(PDF)

授業科目Pick up

私のタイムテーブル

海外実習レポート

教員紹介

取得できる資格

卒業生の進路

学納金

アジア語学科 日本語教育専攻

外国語学部

[Home](#)>[学部](#)>[外国語学部](#)>[アジア語学科 日本語教育専攻](#)>海外実習レポート

海外実習レポート

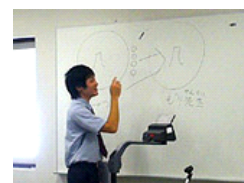
この夏、タイのバンコクにあるスリーパトゥム大学での日本語教育実習に参加した本学の山崎正二さんによるレポートです。なお、山崎さんは平成19(2007)年6月から、タイ東北部のノンカーイ(Nongkhai)県にあるコーコン・ウィッタヤーコム高校(Khokkhom Wittayakom School)に日本語教師として赴任することが正式に決まりました。

タイ国Sripatum大学における日本語教育実習に参加して

● 山崎正二さんのレポート



今年(平成18年)8月下旬から9月下旬までの約4週間、タイのバンコクにあるスリーパトゥム(Sripatum)大学教養学部外国語学科日本語科での教育実習に、日本語教師アシスタント(Teaching Assistant。以下、「TA」と略称)のボランティアとして参加した。参加者は全部で6名。目白大学からは外国語学部アジア語学科日本語教育専攻の池亮介さん、それに人文学部から金玉姫さんと私の計3名で、さらに2校の他大学から3名という顔ぶれである。TAといっても、私たちはタイの学生を実際に預かって授業を担当する。授業は週2~3回で、1コマ(110分)のうちの40~50分を受け持つのである。そして、その授業のための教案と教材作りを朝から晩まで毎日行うというのが、私たちの主な活動だった。私たちは大学が用意してくれた家具付きのアパートに住んでいた。毎朝、バスかタクシーで登校し、午前8時頃から一日の活動が始まる。日本語の授業見学と、教案、教材作り、授業担当等。夕方5時から7時の間は指導教員と実習生が全員集まって、反省会を開く。授業担当の前夜は、翌朝3~4時頃まで絵教材やフラッシュカード等の教材作りをする。



私たちを指導してくださったのは、日本人の専任教員、森康真・高橋あきの両先生だった。今回の実習プログラムは、森先生と高橋先生の企画と指導によるものである。

森先生は厳しく、高橋先生は優しく丁寧に指導してくださった。T Aは2人ずつ組になり、同じクラスに入る。森先生または高橋先生の文法説明の後、2人のT Aは主と副に分かれてクラスを担当し、それを先生が監督される。目白大学からは金沢朱美先生がこの実習プログラム視察のため、クラスを見学に来られた。

学生からみると日本語教師というのは謎が多い。就職の状況、待遇面のこと、具体的にどんなことをするのか、果たして海外に就職はあるのか、そしてそれぞれの国情による海外の生活レベルはどんなものか、やりがいはあるのか。日本ではわからないこともあれば、誰かに聞けば解決するような疑問もある（もっとも、経済面に関わることは聞きづらい…）。だが、今回の実習に参加したことで、私が抱いていた種々の疑問は解消され、迷いは晴れた。日本語教育に携わってみたいと思った。

お金や時間が問題なのではない。大変かもしれないけど、関心や興味があるのに動かないなんて損。2年前に金沢先生の臨地研修（スリーエーネットワーク社の香港理工大生日本研修プログラム）にT Aとして参加したときに、日本語教育の楽しさを知った。この春学期から、日本語教員養成課程を本格的に履修している。



スィーパトゥム大学から
日本語教育活動に対する
感謝状を頂く

研修はハードで、相当の意志の強さと根性が必要とされる。1週目の日曜日には「留学生フェア」という行事のお手伝いもした。長い滞在期間中、観光旅行に出かけた日は1日もない。アパートのルームメイト（私の場合は前述の池さん）や他大学生との友情も芽生えた。私たち目白大生3名の研修最終日にはバンコクで軍事クーデターが発生したにもかかわらず、一足先に帰国する私たちを、残る他大学の学生たちが空港まで見送ってくれた。今回、有意義で貴重な機会であるスィーパトゥム大学での研修に参加できて、本当によかった。もし、日本語教師のことで本気で悩んでいるなら、とにかく現場の実習を体験してみるとよいと思う。



PAGE TOP

授業の様子



授業後の反省会



「お正月」の説明



日本の文化紹介で
そうめんを振舞う